

令和6年9月6日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

## 秋の彼岸・戦災戦死者追悼法要について

大変な残暑の中ですが、皆様方いかがお過ごしでしょうか。

さて、下記の通り標記のご法要が勤修されます。今回は、潮見寺にとっても大切な親戚でもある、入来町の浄國寺の、三木公生先生をお招きしてのご縁です。

浄土真宗では、聞法を第一とします。聞けば聞くほど“おかげさま”を感じ、出遇えば出遇うほど有難い仏法です。手を合わす中に、聞こえるままに、阿弥陀さまとの出遇いとすくいがあります。

どうぞ、お誘い合わせの上、お参りください。

### 記

- 1.と き 令和6年9月21日（土）午後1時から
- 2.おつとめ 仏説阿弥陀経
- 3.ご講師 三木 公生 師（入来町 浄國寺）

注意： 本堂内の椅子は、可能な限り距離は取ってありますが、参拝者のマスク着用を推奨します。

最近発熱があった方、体調不良の方は、参拝はご遠慮ください。

---

- ☆ 畳拭き、そして8月10日の迎盆準備・荘厳におきましては、本当に多くの方々にご協力いただきありがとうございました。
- ☆ “月のことば”を配布します。
- ☆ 法要前の掃除・準備を法要当日9月21日8時より行います。お手伝い頂ける方はよろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみなでご法要を作りましょう。

<予告>

- 秋の永代経法要は10月26日（土）松元町 善福寺 長倉伯博師を迎えて勤修します。

## 伝道

「仏心の中を歩む」 横田南嶺

なぜお彼岸におはぎなのか、由来はよくわかりません。小豆の赤い色が古来魔除けの効果があり、邪気払いにもなるとの説もあります。お彼岸のおはぎは江戸時代頃からの風習のようです。春の彼岸には牡丹の花になぞらえて「ぼたもち」、秋には萩の花で「おはぎ」と呼ぶそうです。

### 幸せはこんなものかな半分こ

こんな川柳を新聞で見かけたことがございます。どんなごちそうでも一人で食べるよりも、半分こしてわけ与えて、「おいしいね」などと言いついて食べた方が、一層おいしく感じられます。

一杯のお茶を入れるにしても、利休居士は「茶を点てて仏に供え、人にも施し吾も飲む」と仰せになっています。まず仏さまに供えて、さらにみんなでいただくと、自分一人で飲むよりずっとおいしく感じます。



私達は、大自然の中でいのちをいただき、大自然の恵みをいただいで生きています。お日さまの光、風、水、大地、これらなくしては一瞬も生きてはいられません。

昔の人はお日さまをお天道さまとって拝んでいました。

俳人の山頭火には、「一杯の水も仏の涙かな」という句もございます。一杯のお水にも手を合わせて感謝していただく、山頭火の姿が思い浮かびます。